



A NEW INTRODUCTION TO DEBATING IN ENGLISH

BOOKLET VOL.6 ディベートスキルを日常に応用する

Note: This booklet was edited as a (very) partial fulfillment for the author's doctoral study at United Graduate School of Education, Tokyo Gakugei University. No school shall be granted with the exclusive right to use its content.

For Academic Year 2022

皆さんはこれまで、英語ディベートのスキルを学びました。ディベート練習の本質は、以下の3点を学び、実践することにあります：

- [1] 物事には複数の視点があること ←今回配布するのはこの[1]に関連する内容だけです
- [2] 意見を言うこと以上に、聞くことが議論では大切であること
- [3] 合意形成のためには、相手との気持ちの繋がりも必要となること

この冊子内の活動を通じて、上記の3点を踏まえ、今後の日常生活や大学の研究の場面で、より上手に周りの人と意見を交換するスキルの定着を図ります。

The quintessence of debating is understanding that things can have multi-facets to be properly assessed, and that listening to others empathetically can be more conducive to reaching a consensus than merely speaking up your ideas. Enjoying activities that follow will remind you of these two lessons, and hopefully encourage you to implement debating skills in your life for its betterment.

自分の短所について（本当に短所だと思っていることではなく、仮に「そう思っている」という設定にします）、相手に意見を求めます。パートナー役の方は、右ページの一覧を踏まえて、相手の短所を、長所に言い換えてはげましてください。

【活動の手順】

- 1) このロールプレイで用いる、仮の自分の短所を決めましょう。

【決め方】 自分の名前のひらがなに対応させ、右ページの索引の項目にしるしをつける

e.g. こばやし	→	こ	「強引な」「興奮しやすい」「こだわりやすい」
		は	「八方美人な」「反抗的な」
		や	（「や」はリストにないので、とばす）
		し	「消極的な」

*ロールプレイであっても、言うのに抵抗がある短所はスキップしてください。

- 2) ペアを組みます。じゃんけんで勝った方が、自身の短所について言う役です。負けた方が聞き役です。
- 3) 勝った方が、相手に自分の気になっている（仮の）短所について話します。聞き役の方は、それについて、右ページを用いて、右列のポジティブな「リフレーミング」された語に言い換えてあげてください。（30秒～50秒程度の時間制限で）

e.g.	こばやし	「思うんだけど、自分って少し強引なところがあるよね」
	いのうえ	「えー、そんなことはないよ。むしろ元気で（エネルギーで）いいと思うよ」
	こばやし	「うーん、それでもさあ、自分の八方美人なところはあんまり良くないよね」
	いのうえ	「それってつまり、人付き合いが上手なことだよ！」

- 4) 時間制限が来たら、今度は役割を交換して再度行います。

【活動の目的・意図】

- ・誰かの悩みを聞くと、相談を受けるときは「相手が何か思い込みを持っていないか」考えてみて下さい。今回の活動では「自分の特性は、悪いものだ」という一種の思い込みを解きほぐす練習しました。
- ・ディベートの授業では、特定の論題に関してその是非を問いました。その活動を通して、皆さんは物事を判断するには複数の視点から見る必要があると学びました。「ベーシックインカム導入」や「積極的安楽死」といった社会に関わる問題に限らず、皆さんの日常に関わる事柄でも同様のことが言えます。
- ・悩んでいることを誰かに相談すると、思いがけず解決法が浮かんだり、肯定的にとらえることができるようになります。これは、他の人の違ったものの見方を知ること、思いがけない気づきが得られる場合があるからです。誰か悩んでいる人がいたら、ぜひ話を聞いてあげてください。

資料 リフレーミング辞書

索引	書きかえたい語	リフレーミングすると	索引	書きかえたい語	リフレーミングすると
あ	甘えん坊な	人にかわいがられる	し	消極的な	ひかえめな
	飽きっぽい	好奇心旺盛な		〃	〃
い	〃	興味が広い	す	ずうずうしい	堂々とした
	あきらめが悪い	一途（いちず）な		せ	せつかな
う	〃	チャレンジ精神に富む	そ		〃
	あわたんぼ	行動的な		た	責任感がない
い	〃	行動が機敏な	た		外面がいい
	いいかげんな	こだわらない		ち	だまされやすい
う	〃	おおらかな	つ		〃
	意見が言えない	争いを好まない		て	だらしない
う	〃	協調性がある	な		〃
	いばる	自信のある		ね	短気な
お	浮き沈みが激しい	心豊かな・表情豊かな	の		〃
	うるさい	明るい・活発な		の	調子にのりやすい
お	〃	元気がいい	つ		〃
	おこりっぽい	感受性豊かな		て	つめたい
か	〃	情熱的な	な		〃
	おしゃべりな	社交的な		は	でしゃばり
か	おっとりした	細かいことにこだわら	ひ		生意気な
	〃	ない・マイペースな		ふ	涙もろい
か	おとなしい	穏やかな	ほ		〃
	〃	話をよく聞く		ま	根暗な
か	面白みがない	きまじめな	む		〃
	かたくな	きまじめな		め	のんきな
か	勝ち気な	向上心がある	ら		〃
	カッとしやすい	情熱的な		る	のんびりした
き	変わっている	味のある・個性的な	る		〃
	がんこな	意志が強い		る	は
き	〃	信念がある	る		反抗的な
	〃	一貫性がある		る	〃
き	気が弱い	人を大切にする	る		人づきあいが下手
	〃	我慢ができる		る	〃
き	気性が激しい	情熱的な	る		人に合わせる
	きつい感じの	シャープな感性の		る	一人になりがち
く	きびしい	責任感がある	る		人をうらやむ
	〃	自分に自信がある		る	ふざける
く	口がきつい	率直な	る		プライドが高い
	口が悪い	率直な		る	ぼうっとしている
く	口が軽い	うそのつけない	る		ま
	〃	社交的な		る	周りを気にする
く	口下手な	うそがつかない	る		負けずぎらい
	暗い感じの	自分の心の世界を大切		る	向こうみずな
け	けじめがない	にしている	る		〃
	けちな	物事に集中できる		る	〃
こ	強引な	経済観念のある	る		無口な
	興奮しやすい	エネルギーが強い		る	〃
こ	こだわりやすい	相手の立場を尊重する	る		無理をしている
	ことわれない	人のために尽くす		る	〃
こ	〃	寛大な	る		命令しがちな
	〃	明るい・活発な		る	目立たない
こ	さわがしい	元気がいい	る		〃
	〃	ねばり強い		る	目立ちたがる
し	自分がない	協調性豊かな	る		面倒くさがる
	自慢する	自己主張できる		る	よく考えない
し	〃	自分を愛している	る		乱暴な
	地味な	素朴な・ひかえめな		る	ルーズな
					〃

1Aの活動では、仮の性格を選んでもらい、お悩み相談をしてもらいました。今回は、実際の性格診断テストを使い、実際の自分の性格について理解を深めます。用いる性格テストは、MBTI 指標 (Myers-Briggs Type Indicator、マイヤーズ=ブリッグス・タイプ指標)という60年前に公開されたもので、その簡便性から現在でも1つの取っ掛かりとして進路ガイダンス等で使われることがあります。 参考: *The Myers & Briggs Foundation* <https://www.myersbriggs.org/>

■ 【活動の手順 A】 オススメ (紙ベース)

- 1) 右のページの質問に答えて下さい。
- 2) 4分割されたカテゴリーにおいて、それぞれ左の列につけた同意チェックと、右の列につけた同意チェックの数を比べ、その数が多い方がそのカテゴリーにおいて優位な特性です。
- 3) 4分割されたカテゴリーの、それぞれ優位になった特性を合わせて、(このテストによる) 自分の性格パターンを特定させます (例えば、ETSJ という具合で)。
- 4) 続くページの「16の性格タイプ表」で結果を見てみましょう。
- 5) 性格タイプ表では、基本的にポジティブな言葉でそのタイプの人の性格を描写しています。ひょっとしたらネガティブにとらえていた自身の側面が、案外悪いものではないと思えるかもしれません。
- 6) 近くの人や先生の結果と比べてみると、何か発見があるかもしれません。
- 7) 時間の余裕があれば、自分の性格タイプの説明に合致しそうな、過去の具体的なエピソードが無いかな考えてみましょう。

【参考】 「16の性格タイプ」とあなたの結果(ESTJ型)でネット検索してみると、そのタイプの人に適性がある(かもしれない) 仕事の内容など調べることができます。ただし、このMBTI指標は実施が簡単であることの代償として、分析精度・結果がとても荒くなっています。今回のタイプはあくまで参考程度にとどめるのが良いでしょう。ちなみに、現在の就職活動で使われるキャリアガイダンス用の性格タイプ診断では、この何倍もの質問項目に数十分かけて回答し、約150の職種とのマッチングが行われます。

■ 【活動の手順 B】 (手元にスマート機器がある場合)

右のQRコードを読み取り、その先の「16 Personalities」という性格診断テストを最後まで回答してください。

【注】このサイトは英語がオリジナルで、翻訳された日本語がぎこちなかったり、分析結果の説明が英語のままであったり、高校生向けではない社会人向けの内容であったりと、少しくせがあります。高校を卒業して、就職活動などを考え始めた時期に、ふと思い出してもう一度やる場合にはおすすめです。



[<https://www.16personalities.com/ja>]

【活動の目的・意図】

- ・活動 1A で確認した、物事の2面性についてもう一度、今度は自分自身の性格について実際に内省するための活動です。気持ちに余裕があるときに、活動の手順 A(7)に取り組むと、有益な気づきが得られるかもしれません。

あなたの天職がずばりつかめる「性格タイプ診断テスト」

(E) 外向的 (Extroverted) (Introverted) 内的 (I)

- ・外向型
- 他人と一緒にいると、元気になる。
- 人の輪の中心にいるのが好き。
- 行動してから考える。
- 声にだして考える。
- 喜怒哀楽を顔に出す。
- 自分のことをよく他人に話す。
- 聞き役より、話し役。
- 情熱をこめて熱心に話す。
- 返事が早い。打てば響く。
- 速いペースを好む。せっから。
- 知識や関心の対象が幅広い。

EがIか _____

(T) 思考 (Thinking) (Feeling) 情緒 (F)

- ・思考型
- ・情緒型
- 一歩下がって状況を見る。
- 個人的な感情をはずさず状況分析する。
- 「論理」「正義」「公明正大」を重視。
- 規則は規則。例外は許さない。
- 他人の欠点が自然と目につく。
- あらさがしをし、批判的になりがち。
- 冷静、無常、無神経、鈍感に見えがち。
- 感情よりも論理的かどうかを優先する。
- 最後まで成し遂げたい。「達成」が重要。

TかFか _____

(S) 五感 (Sensing) (Intuitive) 直観 (N)

- ・五感型
- ・直観型
- 確実で具体的なものを大切にす。
- 実践できるアイデアを歓迎する。
- 現実的な考え方や常識を重視する。
- データを細かく把握し「木を見る」。
- 言いたいことは単刀直入に表現する。
- 一つずつ順を追って詳細に情報を示す。
- 現在に注意を払う。

SかNか _____

(J) 決断 (Judging) (Perceiving) 柔軟 (P)

- ・決断型
- ・柔軟型
- 決断を下すと気分が落ち着く。
- 目録を定め、達成しようとする。
- 結果重視。
- プロジェクトをやり遂げると満足する。
- 時間には限りがある。
- 締め切りを重視。

JかPか _____

優位であった特性に○をしよう。出来上がったタイプを確認しよう (例 ESTJ型)

E	S	T	J
I	N	F	P

私のタイプ [] [] [] [] 型

16の性格タイプ表—あなたはこの性格タイプか—

<p><タイプ1> ESTJ型 責任者</p>	<p>責任をはたす人、組織に忠実なビジネスマン ・責任感が強く、まじめ。支配権をもち決断をくだしたい。 ・規律をもって組織を維持したい。 ・計画的、客観的、論理的。データを扱うのが得意。 ・命勝主義。倫理観が強い。公平。几帳面。</p>
<p><タイプ2> ISTJ型 努力家</p>	<p>ひとりでもコツコツ努力する人、時間をかけて正しいことをする人 ・まじめで、誠実。分別があり、信頼が置ける。仕事をさせてから進ぶ。 ・ルール厳守。論理を重んじ、私情をまじえない。 ・慎重、保守的。ひとりでのんびりが好き。抜群の記憶力。 ・技術畑の仕事が好き。安定した環境で働きたい。</p>
<p><タイプ3> ESFJ型 社交家</p>	<p>人の役に立ち感謝されたい人、思いやりにあふれた社交的な人 ・具体的な方法で人を助けない。責任感が強く、親しみやすい。 ・思いやりがある。人をよるこぼせたい。話好き。 ・あたたかい人間関係を重視。誠実、伝統を重んじる。 ・人と接したい。人から謝意をしめされたい。秩序ある組織で働きたい。</p>
<p><タイプ4> ISFJ型 組織人</p>	<p>組織のなかで生きていく人、名譽にかけて義務をはたす人 ・忠誠心が強く、ひたむき。思いやりがあり、実直。責任感がある。 ・地に足がついている。賞罰はかならずはたす。忍耐強い、すぐれた記憶力。 ・強い労働倫理をもっている。伝統的、保守的。アークを扱うのが得意。 ・静かで控えめ。勤勉。やさしく、同情心がある。一対一の人間関係を好み、楽しさを求めて冒險する人、多忙が大好きな人</p>
<p><タイプ5> ESTP型 冒険家</p>	<p>おおらか、自然体、のびのび。くよくよしない。大胆な行動をとれる。 ・観察力にすぐれている。現実的。いまという瞬間を楽しむ。新しいものが好き。 ・自分にも人にも寛容。型にはまらない。親しみやすい。人気者。 ・身体を動かしたい。冒険好き。会話を好み、多くの人と交流したい。</p>
<p><タイプ6> ISTP型 実務家</p>	<p>危険やスリルを求める人、独立心の旺盛な実務家 ・正直、正直。見栄をはずす、気取らない。好奇心旺盛。観察眼が鋭い。 ・技術を習得し、機械や道具を扱いたい。メカに強い。ひとり作業に没頭したい。 ・事実を重視し、情報を知識として蓄える。静かで控えめ。 ・だれとでも平等に接し、公平。アウトドアを好み、運動が得意。</p>
<p><タイプ7> ESFP型 楽道家</p>	<p>活動に行動する人、「くよくよするな、幸せになるう」がモットー ・人と一緒にいるのが好き。生活そのものによるこびを感じる。遊び好き。 ・陽気で活発。楽しいことが好き。あたたかく、親しみやすく、融通がきく。 ・現実的、常識的。思いやりがある。派閥争いを収拾できる。 ・会話が得意。管理業務より現場で仕事がしたい。意外性を好み、調和を願う繊細な人、不慣習の控えめで温厚な人</p>
<p><タイプ8> ISFP型 職人肌</p>	<p>やさしい、思いやりがある、感受性が鋭い。情熱をうちにためている。 ・地味で控えめ。辛抱強い。中立的な態度をとる。誠意がある。 ・自分なりの価値観をもっている。チームのよきメンバーとなる。 ・具体的、実践的なものを好み、ひとりでも働く時間をもちたい。</p>

<p><タイプ9> ENTJ型 リーダー</p>	<p>人のうえに立ち出世を求める人、生まれながらのリーダー ・才能豊かなリーダー。決断をくだす役割をはたす。 ・論理的、分析的。目標達成をめざして指図したい。 ・複雑な問題を解決したい。状況をつねに改善し、挑戦していきたい。 ・先見性がある。競争心・野心が強い。求める水準が高い。</p>
<p><タイプ10> INTJ型 アイデアマン</p>	<p>アイデアを発想する人、能力+自主性=完璧主義者 ・独創的で洞察者がある。創意工夫に富む。生まれながらのアイデアマン。 ・完璧主義者。戦略的思考家。できれば独立して働きたい。 ・目標を達成したいという不屈の精神をもつ。 ・良識ある人たちが働きたい。高い水準を維持したい。仕事を公平に評価されたい。</p>
<p><タイプ11> ENTP型 企業家</p>	<p>強い印象を与えて人を興奮させる人、生まれながらの企業家 ・興奮と挑戦を愛する。熱意にあふれ、創意工夫に富む。 ・創造的かつ革新的な解決法を実行したい。急な変化に対応したい。 ・順の回転が速い。自信家。インスピレーションを重視する。限界に挑むのが好き。 ・コミュニケーション能力がある。好奇心旺盛、多芸多才。抜目がない。</p>
<p><タイプ12> INTP型 戦略家</p>	<p>完全無欠を求める人、独創的に問題を解決する人 ・ものごとの本質を見きわめ、むずかしい概念について考えてたい。 ・控えて超然としている。分析的、批判的、論理的。 ・難問を解決したい。人と接するより、複雑な問題について考えていたい。 ・ものごとの全体像を見る能力がある。自信満々。向上心・知識欲旺盛。</p>
<p><タイプ13> ENFJ型 チームリーダー</p>	<p>人の幸福を願う人、PRが得意な社交家 ・人間が好き。思いやりがある。つねに人を気づかす。良心的で忍耐強い。 ・忠誠心が強く、組織の一員としてまじめに働く。規律を守る。 ・礼儀正しい。社交上手。穏やかで寛容。円滑な人間関係を築ける。 ・コミュニケーション・プレゼンテーション能力がある。目標を達成する。</p>
<p><タイプ14> INFJ型 理想家</p>	<p>誠実で協調する人、縁の下の力持ち ・アイデアやひらめきを重視する。独立心が強く、感受性が豊か。 ・確固とした理念をもつ。高潔で誠実。責任感が強い。思いやりがある。 ・周囲と調和し、合意を尊重したい。連帯感を強めようとする。 ・信念を曲げたくない。好断力がある。組織をまとめられる。</p>
<p><タイプ15> ENFP型 創作者</p>	<p>可能性を追求する人、好奇心のかたまりの名工芸師 ・独創的で斬新な考え方をすすめる。熱意がある。楽観的、自然体。 ・好奇心旺盛。想像力が豊か。ひらめきを重視する。常識にとらわれない。 ・進取の気象に富む。既成概念にとらわれない。魅力的で活力がある。 ・周囲に人がいると元気になる。モノよりも個人的な人間関係を大切にする。</p>
<p><タイプ16> INFP型 芸術家</p>	<p>心の平和を求める人、胸のうちに情熱を秘めた芸術家 ・感受性が鋭い。夢や理想を追いかけたい。心の落ち着かせたい。 ・自分の価値観は曲げたくないが、それを人に押しつけたいとは思わない。 ・無口で穏やか。一対一の人間関係を好み、親しい人には胸襟をひらく。 ・できればひとりでも仕事をしたい。規制がないところで独創性を表現したい。</p>

【メモ用紙】

A series of horizontal dashed lines for writing notes.

◆ 志望書に含めること：あなたの「過去・現在・未来」

大学入試の自己推薦文（大学や入試形態によって様々な呼び名があります）や、就職活動での自己紹介カード（「エントリーシート」という表現を聞いたこともあるかと思いますが）、表面上は指示が違っていたり、答える質問が違っていたりしますが、結局のところ本質的には、以下の3点を聞いています：

- ① あなたは過去にどんなことを経験して、
- ② あなたはその結果、どんなことを将来やりたいと思うようになって
- ③ その実現の為に、今どんな具体的な取り組みをしているのか（したのか）。

これらの問いは、恐らくほとんどの人が突然尋ねられたら、答えられない難しい問いです。1Bの活動で確認した様に、自分では気が付いていなくても、他の人からすれば十分誇りに思っただけ素晴らしい書くべき経験と思いが、きっと皆さんの中にはあるはずです。

大学入試の志望書では、過去にこのようなことをして、将来（10年後ぐらい）どんなことをしてみたいと思うようになって、そして志望する大学での学びがどうその実現に欠かせないのか、を書けば伝わると思います。

また、これらの問いへの答えは、少しずつ変わっていくものでしょう。一度書いた物は捨てずに保管して、あとで見返すことができるようにしておいても良いかもしれません。1年を通して、また何年か後で読み返して、自分の考えの変化を知ることができるでしょう。（ちなみに、気分が落ち込んでいる時に読み返すと、当時の気持ちを思い出して元気になります）

◆ 活動その① 「過去・未来・現在」の要素を探す

上の3つの問いについて答えている作文を、右ページに例示します。一つ目はある有名な野球選手が小学6年生の卒業文集に書いた有名な作文です（誰でしょうか）。2つ目は、10年ほど前にとある大学の給付奨学金に申請する人のために、小林が書いた推薦文です（推薦した本人の許可を貰っています）。それぞれ上記の3点がどう具体化されているのか、読み取ってみましょう。またその際には、どのようにその人のポジティブな側面が書かれているか、前述の「リフレーミング辞書」に出てくるような表現を探してみましょう。

【参考】英文での志望書の参考として、自分（小林）が数年前、English Speaking Union というイギリスの団体が行っていた、英語スピーキング指導者への助成金制度に申し込んだ際の書類の一部を転載しました。また、同じ助成制度の申請にあたって、日本の元カナダ大使の方に書いていただいた推薦状も許可を頂き、掲載してあります。世の中には他にも英文推薦状の文例はありますが、掲載の許可の得やすさからこれら2例を載せました。

◆ 活動その② 「問題解決型スピーチ」の要素を探す

志望書に書かれている具体的なエピソードの多くは、皆さんが英語ディベートのスピーチ作成で学んだ、「問題解決(problem & solution)」の文章展開が用いられています。再度読み直して、どのような問題に対して、どの様に取り組んだのかが書かれている部分を探しましょう。

【これからすること】以上の活動の後には、自身が大学に進学するにあたって志望書に取り入れる内容を考えてみましょう。考える過程を通して気づくこともあり、1つの志望書が完成するまでには相応の時間が必要です。文章の分量や文体についてなど、インターネット上で公開されている多くの例を参考にしても良いでしょう。

① 僕の夢

ぼくの夢は、一流のプロ野球選手になることです。

そのためには、中学、高校でも全国大会へ出て、活躍しなければなりません。活躍できるようになるには、練習が必要です。ぼくは、その練習にはじしんがあります。ぼくは3才の時から練習を始めています。3才～7才までは、半年位やっていましたが、3年生の時から今までは、365日中、360日は、はげしい練習をやっています。

だから一週間中、友達と遊べる時間は、5時間～6時間の間です。そんなに練習をやっているんだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。そして、中学、高校で活躍して高校を卒業してからプロに入団するつもりです。そして、その球団は、中日ドラゴンズか、西武ライオンズが夢です。ドラフト入団でけいやく金は、1億円以上が目標です。ぼくがじしんのあるのは、投手と打げきです。

去年の夏ぼくたちは、全国大会へ行きました。そしてほとんどの投手を見てきましたが、自分が大会ナンバー1投手とかくしんでできるほどです。打げきでは県大会、4試合のうちに、ホームランを3本打ちました。そして、全体を通して打ちつは5割8分3厘でした。このように、自分でもなっとくのいくせいせきでした。

そして、ぼくたちは1年間まけ知らずで野球ができました。だから、このちょうしで、これからがんばります。

そして、ぼくが一流の選手になって試合にでれるようになったら、お世話になった人に招待券をくぼって、おうえんしてもらおうのも1つです。

とにかく一番大きな夢は、プロ野球選手になることです。

② (ある大学奨学金制度への推薦文)

本生徒は、親族に法曹関係者がいることから法律に関心を持ち、自分が顧問を務める高校のディベート同好会に高校1年より所属している。豊島区の主催する日本語ディベート大会では、本人が中心となりチームで努力をし、優勝をした。また、英語ディベートでは様々な高校生大会に出場するだけでなく、貴大学にて催された大学生向け大会への見学及び出場など、大いに活動に励んだ。英語ディベート活動を通して、特にアフリカ地域の内戦への解決に向けた取り組み、そしてアジアの発展途上国の子どもの福祉について問題意識を持つようになり、英語ディベートを通して知り合った貴大学の卒業生などからその分野でのどのような貢献が可能であるか話を聞き、将来の志望を固めるようになっている。

このように、本人は将来について明確な志望を持ち、前述の貴大学の卒業生で現在はその分野で働いている者、そして本推薦者であり貴大学の卒業生である自分自身より話を聞き、その志望の実現には貴大学で学ぶことが欠かせないと深く確信を持つに至っている。日々の生活態度は他の生徒の模範となるものであり、貴大学で学べるならば、必ず将来は多くの人を助ける存在になると考えられる逸材である。奨学金の助けがなければ、しかしながら貴大学で学ぶことは望めない経済状況であると本人より聞いており、以上から貴奨学金に本人を推薦いたします。

③ How I came to devote my life for the teaching of English oracy skills

Upon reflection, my academic goals have been two folds: to understand the Japanese culture and society from the lens of non-Japanese values, and to learn how society shapes us, especially young children. These two interests originated from my family history. Being raised by my grandparents for a family reason, I often had the chance to hear their stories about how the lives were like during the Second World War and after.

My grandmother's brother was a mechanics of fighter planes (called *Zero*), and lost his life in Philippine during WWII. She often told me that I reminded her of her brother. My grandfather was conscripted and after uneventful months in Northeast China, captured by Red Army and became a POW in Soviet Union, serving four years in Siberia.

These family memories passed down to me made me wonder why the Japanese people in the past did what they did, and how culture and society mold children, including my grandparents when they were young, into who they were.

These my interests led me to major education and linguistics (focusing on language acquisition and cognitive development of children) at college. My teaching practices at high schools in Japan and at California (I joined an exchange program at University of California, Santa Cruz) made me realize how important talk is for both the children's learning at home and at classroom. This realization, that talk can be a powerful learning tool and can shape who we are, pushed me to look for the way to encourage students to talk and share ideas in meaningful ways

My interest, in no small part stemming from my family history, also guided me to join an English debating society at college. I initially thought that debating was just a good way to improve my English skills (which I believe it is), but I gradually realized there is so much more to it than that. Sharing ideas, looking for important issues in the world, and understanding what kinds of values our society stand on can best be learned from debating, which I was convinced from my eight years' experiences as a university debater.

Participating in international debating competitions (such as WUDC, Austral-Asians, North-East Asians) also allowed me to see international events from different perspectives, identifying what assumptions each party involved has.

These experiences shaped my professional goal, which is to be an (English) teacher who can facilitate students to learn to talk and talk to learn in English. Besides, I came to realize that debating skills in English are what students are needing now in Japanese high schools, as they need to face social changes caused by aging society and globalization; they need to make tough decisions in the future.

With these background, I am sure that I can contribute for the betterment of our society in a unique way, that is, to promote debating in English in ESL or EFL contexts at high school.

RE: Letter of Support for Mr. Yoshihiro KOBAYASHI
Applicant for the International Teacher Award

Dear [REDACTED]

It is a great pleasure for me to write on behalf of the English-Speaking Union of Japan (ESUJ) in support of Mr. Yoshihiro Kobayashi's application for the International Teacher Award. In close association with ESUJ, he has made, and is continuing to make a truly valuable contribution to the promotion of oracy skills in the English language among the young people, especially high school students, in Japan.

When ESUJ was established in 1998, Baroness Brigstocke, then ESUJ Chairman suggested that ESUJ start a parliamentary debate competition. This was a challenging assignment because active communication in English was and still is a great trial for Japanese people. The English language education in Japan traditionally tilted heavily towards literacy, i.e. primarily reading and, to a limited extent, writing. Speaking was given a secondary priority at best, and very little attention, if any, was paid to discourse, namely the abilities to express thoughts in a coherent fashion. Under those circumstances, the task of promoting parliamentary debate fell not on the school system but on ESUJ as a voluntary organisation. The annual ESUJ university debate competitions helped create a corps of student debaters who were inspired by this most effective means of developing their communication skills in English.

Mr. Kobayashi was one of their active leaders. He was very impressed by the ESUJ University Debating Competition in 2000 and decided to become a debater. While he was a graduate student at Tokyo University, he won laurels at such competitions as World Prep Tournament and the JPDU (Japan Parliamentary

Debate Union) Tournament. He was one of the founders of the University of Tokyo Debating Society in 2005, and was coaching debate in Japan and South Korea. He put his passion for debating into action even after he chose his career as a senior high school teacher of English. He and his like-minded teaching colleagues founded in 2010 the High School Parliamentary Debate Union of Japan (HPDU). Since 2012, HPDU, with the advice of Mrs. Makiko Okada, ESUJ Executive Director in charge of debate, has been successfully organising a national parliamentary debate tournament for high school students, called the HPDU Cup, every March and another championship for novice debaters every June. HPDU and ESUJ will start co-sponsoring the HPDU Cup from March 2019.

In addition to organising these competitions, Mr. Kobayashi has been engaged in the pioneer work of developing manuals/textbooks for teaching parliamentary debate. To teach debate to high school students, one requires not only debating experience, but also needs to be well versed in the teaching of the standard curriculum of English, so as to have an accurate feel for the abilities and potentialities of students. To help meet these needs, he has thus far published five textbooks, which have brought debate much closer to Japanese teachers and students alike. In the 2015 World Debating Championship, a student of his was the quarter finalist in the ESL debates and 4th best EFL speaker.

In the new curriculum guidelines for high school English issued by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology in July, debate has become a compulsory subject, meaning that every high school student will be required to learn debate by 2022. This mainstreaming of debate in the curriculum owes much to the steady and persistent efforts made by ESUJ and the debaters. In particular, Mr. Yoshihiro Kobayashi has played a tireless and indispensable role through his rare combination of debating and classroom teaching experiences.

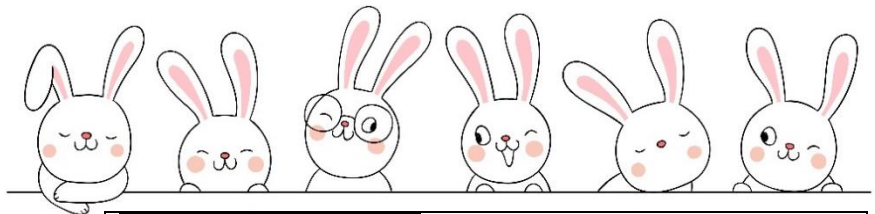
For these reasons, I strongly recommend Mr. Yoshihiro Kobayashi for the International Teacher Award of the English-Speaking Union.

Yours sincerely,

◆ 同じ事実・分析を根拠として異なる結論が生じる例

【例題】ここまでの活動で、物事の二面性を踏まえれば自己理解もより深まることを確認しました。以下では応用として、より幅広い日常また社会での物事についても同じく多面性が存在することをみてみましょう。以下の[1]～[5]では同じ事実・分析に基づいて、相反する結論が導かれています。それぞれ読んでみて下さい。

- [1] 「夏休みの宿題を生徒にたくさん与えることは、これは……」
 - 生徒が自学自習の態度を習得する機会を奪うことにつながる。
 - 生徒の学習に方向付けを与え、一層の学習を促す。計画的に勉強する訓練の機会となる。
- [2] 「死刑は特別に重い刑罰であるが、それゆえに……」
 - 死刑制度は廃止するべきだ。
 - 死刑制度は存続されるべきだ。
- [3] 「意見が相いれない、敵対する相手がある場にいると……」
 - その相手との対立により、集団に安心して所属することができなくなる。
 - その相手と敵対する者同士で団結し、安心して所属できる集団が得られる。
- [4] 「軍拡競争は、科学技術の発展を促すので……」
 - (短期的には) 戦争がより一層、悲惨な結果になり得る (例えば大陸間弾道ミサイル)。
 - (長期的には) 生活により利便性をもたらす (例えば GPS やインターネット)。
- [5] 「義理チョコをもらえない男子は、バレンタインの日につらい思いをすることになるので……」
 - 心に傷を持つ男子の数を増やすことになるので、バレンタインは禁止するべきだ。
 - チョコをもらえなかった悔しさをバネに、自分磨きをする機会と意欲を一定数の男子が得ることになるので、バレンタイン行事は継続されるべきだ。



【右ページの活動その①の解答例】

- [6] 「制服によって、生徒は校内で服装を通して個性を示すことが出来なくなるため……」
 - そんな生徒の個性発揮の機会を奪う学校制服はすべからず廃止されるべきだ。
 - 内面を磨いたり、自身の振る舞いを洗練させることを通して、より生徒は個性的になる。
- [7] 「小説の映画版は、作中の情景が具体的に表現されており、その結果……」
 - 物語がいつそう分かりやすくなり、作品をより楽しむことができる
 - 受け手が想像力を駆使する機会が少なくなり、作品の楽しみが損なわれる

◆ 活動その① 「同じ事実・分析から異なる結論を導く」

左ページの例[1]～[5]を真似て、以下の[6]と[7]で示されている2つの事実・分析について、それぞれ相反する結論が導けないか考えてみましょう。

[6] 「制服によって、生徒は校内で服装を通して個性を示すことが出来なくなるため……」

- ・ [上記の分析をポジティブにとらえた結論]

.....

- ・ [上記の分析をネガティブにとらえた結論]

.....

[7] 「小説の映画版は、作中の情景が具体的に表現されており、その結果……」

- ・ [上記の分析をポジティブにとらえた結論]

.....

- ・ [上記の分析をネガティブにとらえた結論]

.....

◆ 活動その② 自分で例を考えてみましょう

これまでの例を踏まえて、同一の事実・分析から相反する結論が導かれている世の中の例を自分で探してみましょう。

.....

.....

.....

【これからすること】 英語または日本語を問わず、この複数の観点を探ることはディベートの試合では大切なことです。また、そのようなディベートゲームのみならず、これから何か提案を評価する際や、世の中で議論になっている物事について検討する場合は、今回の活動で学んだことを思い出してください。

【メモ用紙】

A series of horizontal dashed lines for writing.

【メモ用紙】

A series of horizontal dashed lines for writing.

ISBN978-4-410-XXXX-X C7037 ¥PRICELESS

定価: みんなの努力と批判的思考力

発行: S.A.D. Works



A New Introduction to Debating in English [Book 6] 抜粋

ディベートスキルを日常に応用する

